

柔和な者は幸いです

マタイの福音書 5章5節

はじめに

アドベント（待降節）も三週目になりました。私がウェルカム・サンデーで説教をする時には、イエス様が語られた「幸せ」についてお話することになっています。

イエス様は、群衆と弟子たちに向かって、八つの「幸せ」について語られました。イエス様から見れば、どんな人が幸せに見えるかという話です。それは、①心の貧しい者、②悲しむ者、③柔和な者、④義に飢え渴く者、⑤あわれみ深い者、⑥心のきよい者、⑦平和をつくる者、⑧義のために迫害されている者、です。

今日は、三つ目の「柔和な者」についてお話します。

1. 柔和な者は、地を受け継ぐ

イエス様から見れば、柔和な人は幸せに見えるのです。なぜなら、柔和な人は「地を受け継ぐ」からです。

「地を受け継ぐ」とは、神様からこの地上を相続するという意味です。旧約聖書の創世記によれば、この地上は、神様によって造られました。目には見えない神様が永遠の昔から存在しておられ、何もない所から「光、あれ」という言葉によってこの地上を造られました。この地上は、神様のものです。そして神様は、この地上の管理と支配を、私たち人間に委ねられたのです。

しかし私たちの先祖のアダムとエバが、神様に従わず禁断の木の実を食べて以来、私たち人間は神様に従わない罪の性質を持つようになり、この地上の管理と支配も、暴力や権力が支配するようになりました。

そのような中で、神様であるイエス様がこの地上にお生まれになり、人々に向かって、この地上の管理と支配は、「柔和な人」にこそ委ねられると言われたのです。

2. 柔和な者とは？

では、柔和な人とはどんな人でしょうか？一般的に柔和な人というのは、優しい人や穏やかな人のことを言います。つまり、すぐに怒ったり憤ったりすることなく、温和で温厚な人のことを言います。

では、聖書で言う柔和な人とは、どんな人のことでしょうか？イエス様が語られた「柔和な人は地を受け継ぐ」という言葉は、旧約聖書の詩篇 37 篇に書かれています。詩篇 37 篇 1-11 節を開いて読んでみましょう。

「悪を行う者に腹を立てるな。不正を行う者にねたみを起こすな。彼らは草のようにたちまちおれ、青草のように枯れるのだから。主に信頼し、善を行え。地に住み、誠実を養え。主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は、あなたの義を光のように、あなたの正しさを、真昼のように輝かされる。主の前に静まり、耐え忍んで主を待て。その道が栄えている者や悪意を遂げようとする者に腹を立てるな。怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。悪を行う者は断ち切れ、主を待ち望む者、彼らが地を受け継ぐからだ。もうしばらくで、悪しき者はいなくなる。その居所を調べても、そこにはいない。しかし、柔和な人は地を受け継ぎ、豊かな繁栄を自らの喜びとする」(詩篇 37:1-11)。

柔和な人とは、①悪を行う者に腹を立てず、不正を行う者をねたまない人、②神様に信頼して、神様に委ねる人、③誠実に歩み、正しいことを行なう人、④神様の前に静まり、神様を待ち望む人、です。一言で言えば、怒りや妬みを持たずに、神様に信頼して委ねる人です。

私たちはあらゆる人間関係の中で、怒りや妬みを持ち、柔和でいられなくなる現実があります。夫婦の関係の中で、子どもとの関係の中で、親との関係の中で、兄弟との関係の中で、友達との関係の中で、学校での関係の中で、職場での関係の中で、そして教会での関係の中で・・・。

私たち人間は、アダムとエバが禁断の木の実を食べて以来、罪の性質を持つようになり、愛を見失い、怒りと妬みが心に生まれ、あらゆる人間関係を壊してしまう性質を持つようになりました。

詩篇 37:8 に、「怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ」とあります。怒りや憎しみを心に抱えていると、私たちの心は悪に蝕まれていきます。どんなに正当な怒りであっても、怒りや憎しみを心に持ち続けていると、私たちの心は悪へと誘われていくのです。

聖書は、怒りや憎しみ、妬みを自分の心から捨て去り、それらを神様に委ねるようにと言います。そして神様が導かれることを待ち望むようにと言います。それは、自分で復讐したり、自分で背負い込むのではなく、神様の導きにすべて委ねることです。柔和な心は、神様との関係から生まれます。神様との関係を回復し、神様との交わりの中から生まれてきます。神様への信仰から、柔和な心は生まれてきます。

3. 柔和に生きられたイエス様

マタイの福音書 11:28-30 を開いて読んでみましょう。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからです」(マタイ 11:

28-20)。

イエス様は、「わたしは心が柔和でへりくだっている」と言われました。イエス様こそ柔和な方です。イエス様は、全く怒らない、憤らない方ではありません。イエス様は時に怒り、憤ることもありました。イエス様は、怒るべき時にこそ怒り、憤るべき時にこそ憤る方でした。柔和な人とは、ただ怒らない人、憤らない人ではありません。ただ何でも笑顔でやり過ごす人でもありません。柔和な人とは、怒りの感情に任せず、神様に信頼して委ね、心を静めて神様が導かれることを耐え忍んで待つ人のことです。

イエス様は、当時の宗教指導者たちの妬みを買って、十字架に架けられ殺されました。イエス様の弟子たちも、イエス様を見捨てて逃げて行きました。それでもイエス様は、怒りや憤りによって、宗教指導者たちと戦ったり、弟子たちを恨んだりしませんでした。イエス様は、「**屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かな**」(イザヤ 53:7)かったと言われています。それは、イエス様が神様に信頼して、自分自身を委ねていたからです。イエス様は十字架上で、このように神様に祈られました。「**わたしの霊をあなたの御手にゆだねます**」(ルカ 23:46)。イエス様は死に至るまで、神様に信頼して委ねられたのです。

しかしある人は言うでしょう。イエス様は結局、殺されてしまったじゃないか。結局、柔和な人が負けるのだ。やっぱりお人好しでは駄目だ。神様に信頼して委ねても、結局神様は何もしてくれない。やっぱり自分の力で戦っていくしかないのだ。

本当にそうでしょうか。本当に柔和な人は負けるのでしょうか。神様に信頼して委ねても、神様は何もしてくれないのでしょうか。イエス様は、十字架で殺されたままではありませんでした。神様は、イエス様を三日目によみがえらせました。そして神様の右の座に着かせ、天においても地においても、すべての権威を与えられました(マタイ 28:18)。イエス様はまさに、神様から「地を受け継いだ」のです。

イエス様は、「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです」と言われましたが、イエス様こそ、生涯の最後に至るまで「柔和」に生きられ、「地を受け継がれた」のです。

地上では、今もイエス様を神様と信じる人が世界中にいます。そして 2,000 年経った今でも、イエス様の誕生を祝うクリスマスは、世界中で祝われています。イエス様こそ、時代と空間を超えて、この地上で最も影響力のある方です。柔和に生きられたイエス様は、まさにこの地上を受け継がれたのです。

おわりに

イエス様は言われました。「**すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくび**

きは負いやすく、わたしの荷は軽いからです」。

イエス様が「わたしのもとに来なさい」と言われている「疲れた人、重荷を負っている人」とは、柔和になれず、心に怒りや憎しみや妬みを抱えて苦しんでいる人のことではないでしょうか。夫や妻、子どもや親、友達や先生、職場の同僚や部下、教会の兄弟姉妹に穏やかに接したいけれど、つい怒りやイライラをぶつけてしまう、どうしても赦せない人がいる、憎くて恨んでいる人がいる、そんな自分がどんどん嫌な人になっていく、どんどんキツイ人になっていく、あらゆる人間関係が壊れていく、そんな自分を変えたいけれども変えられない、そういう人をイエス様は、「わたしのもとに来なさい」と言われているのではないのでしょうか。

イエス様は神様です。イエス様を信じて、イエス様に委ねていく時、私たちは柔和な人に変えられていきます。自分で復讐するのではなく、自分ですべてを背負い込むのでもなく、イエス様が導いてくださるのを待ち、イエス様に信頼して委ねていくのです。その時私たちは、神様から祝福を相続するのです。

イエス様こそ柔和に生きられ、地を受け継がれた方です。イエス様は、「わたしのもとに来なさい」と私たちを招いておられます。イエス様を信じ、イエス様に委ねて生きる時、私たちも柔和な人に変えられ、地を受け継ぐようになるのです。